

No. 923

東南アの旅へ

—第5回青年の船—

昭和46年度「青年の船」の結団式が9月17日総理大臣官邸で行なわれました。東南アジアの現状をつぶさに視察し、それぞれの国の青年達と国際親善を深めようとい行なわれて今年で5回目。佐藤首相の激励をうけて福田団長以下351人は緊張した面持です。9月20日東京晴海埠頭は関係者や家族の盛大な見送りをうけ「青年の船」サクラ丸はタイ、マレーシアなど東南アジア6ヶ国訪問のため54日間の航海に旅立ちました。

血と炎の成田

—第2次強制執行終る—

4000メートル滑走路の北端にある駒井野団結小屋、中央近くの天浪団結小屋、旅客ターミナル近くの木ノ根団結小屋、ターミナル北の社会党一坪運動地成田空港建設予定地の広大な土地に点在する四カ所の第2次強制代執行は9月16日早朝から始まった。最新型のブルドーザーやクレーン車など133台を繰り出し、5,300人の制・私服警官に守られた公団側は午前6時45分、代執行を開始。

三里塚・芝山連合空港反対同盟の農民や支援学生・労働者がたてこもる団結小屋の撤去にとりかかった。乱れ飛ぶ火炎ビンや石、激しい抵抗にあい排除作業は難航したが、正午すぎ最大のトリデ駒井野団結小屋もついに落城した。

しかし、各地に分散した学生はゲリラ活動を繰返し、反対派拠点に近い成田市東峰では道路検問と危険物排除にあたらうとした機動隊を襲い、ついに成田闘争初めての死者まで出した。

20日、正午から強行された小泉よねきん(63才)宅、この日、よねさん脱穀機のエンジンをかけ取り取ったばかりの稲こきを始めた。意表をつかれ、支援学生がほとんどいなかったよねさん宅の代執行は1時間足らずで終わった。

機動隊に手足をかかえられ、自宅から連れ出される間、よねさんは終始無言だった。

反対派の重要拠点がほぼ撤去され5年余の反対闘争は一応の終結を見た。だが「血と炎の成田」は人々から忘れ去られることはないであろう。